

題材名 二枚の絵（鑑賞）

日本と西洋の絵画を比較することで、自国や諸外国の美術や文化に対する見方や感じ方を深める活動

学年	3 年
場所	被 服 室

1 題材について

本題材は、同時代の同じ題材を表現した日本絵画と西洋絵画を比較鑑賞し、その表現の共通点や相違点を考えることをきっかけとして自国や諸外国の美術や文化に対する見方や感じ方を深めるものである。

なお、この題材は学習指導要領第2学年及び第3学年の内容「B鑑賞」(1)イ(イ)「日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。」[共通事項](1)ア、イにあたる。

本題材では、展開1で諸外国でも高い評価を得ている葛飾北斎の連作錦絵「神奈川沖浪裏」を取り上げ、同時代であるギュスターヴ・クールベのフランス写実主義絵画「The Wave」と比較する。鑑賞作品を共通の「波」としたことで、表現の共通点や相違点が見つけやすいと考えた。2枚の絵を比較鑑賞するために、3つの鑑賞のポイント「対象」「構図」「色」を示す。この3つのポイントを示すことで、作品を鑑賞する視点が定まり、話し合いを通して、浮世絵の特長である「陰影をつけない線描による平面的な描写」「余分なものを切り捨てた明快な図柄」「鮮やかで生彩に富んだ色彩」「左右非対称や余白を活かす、対象物の一部の拡大や切り取り、地平線を高く設定する構図」「左右非対称や余白を活かす、対象物の一部の拡大や切り取り、地平線を高く設定するなどの構図」「前景に大きなモチーフを描いて遠景と対比させる対比遠近法」などに気づかせたい。さらに、浮世絵の表現方法が当時の西洋の人々に与えた衝撃を想像させ、次時への学習意欲につなげたい。

展開2では、モネ、ゴッホ、ガレの作品を鑑賞し、浮世絵の影響を見つける。浮世絵が西洋文化に与えた影響について考えることは、これからの国際社会で活躍する日本人として自国の伝統や文化の誇りを持ち、異なる文化を価値あるものとして互いに尊重し合う態度が培われると考える。生徒はこれまで、導入段階でさまざまな作品を鑑賞し表現に取り入れてきた。また、互いの作品を見合う経験を小学校から積んできている。本題材は、3年生にとって義務教育最後の鑑賞の授業となる。作品から感じ取ったことや考えたことを説明し合うことを通して、互いの対象の見方や感じ方を広げ、自分なりの意味を作り出す鑑賞の楽しみ方を身に付けることで、生涯にわたって美術に親しみ、楽しみ素地を作りたい。

2 題材の目標

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日本の美術や文化のよさや美しさ、諸外国の美術や文化との相違点や共通点を知り、互いに影響を及ぼしながら新しい表現を創造してきたことを理解する。	作品から感じ取ったことや考えたことを説明し合うなどして、互いに対象の見方や感じ方を広げ、自分なりの意味や価値をつくり出す。	自分なりの価値意識をもって作品を鑑賞し、作品に対する考えを自分の言葉で表現しようとする。

3 指導計画（2時間扱い）

- 2枚の絵（西洋の写実主義絵画と日本の浮世絵）を比較鑑賞し、相違点や共通点などから浮世絵の表現の特徴や表現の工夫を考える _____（本時）1
- 浮世絵が西洋文化に与えた影響や印象主義について知り、印象主義の表現活動が新しい表現を創造する芸術運動として行われたことを理解する _____1

4 扱う作品

ギュスターヴ・クールベ [The Wave] 1869・フランス

葛飾 北斎 [神奈川沖浪裏] 1831・日本

5 本時の指導

○本時の目標と学習課程

- ・自分の価値意識をもって話し合い、日本及び西洋の絵画の表現についての理解や見方を深めることができる。
- ・感性や想像力を働かせて、作品から感じたことや考えたことを自分の言葉で表現することができる。

学習活動と内容	教師の支援 ★評価
<p>○ギュスターヴ・クールベの「The Wave」と葛飾北斎の「神奈川沖浪裏」を見てどちらの絵が好きか理由とともにワークシートに記入する。</p> <p>○どちらが好きか理由を述べて発表する。</p>	<p>○第一印象で直感的に決めるよう伝える。</p> <p>○理由をあげて自分の考えをしっかりと記入するよう促す。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>○どちらが好きか全体に問いかけて挙手させ、発表者を選ぶ。</p> <p>○同じ作品を見ても人によって感じ方が違うことに気づかせ興味を喚起する。</p>
<p>2枚の絵を比べて、西洋と日本の絵画表現の特徴を探ろう</p>	
<p>○2枚の絵の共通点や相違点を見つけ、ワークシートに記入する。</p> <p>○グループ内で自分の考えを発表し合う。</p> <p>○学級全体にグループの意見を発表する。</p> <p>○2枚の絵の相違点や共通点をあげながら、西洋と日本の浮世絵の表現の特徴について考える。</p> <p>○西洋の絵と比較しながら浮世絵の特徴や表現の工夫について整理し、ワークシートにまとめる。</p> <p>○本時の学習を振り返り、自己評価する。</p>	<p>○「対象」「構図」「色」の3つの比較鑑賞のポイントを示しておく。</p> <p>○気が付いたことから記入し、できるだけ全て記入できるように促す。</p> <p>★作品から感じたことや考えたことを自分の言葉で表現しようとしているか。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>○鑑賞では自由に自分の考えを述べてよいこと、他の考えを尊重することを徹底する。</p> <p>○他の発表を聴きながら、以下の様にワークシートに書き込ませ、鑑賞の深まりを確かめる資料とする。</p> <p>「なるほど」→自分の気づかなかった見方や考え方は赤で記入</p> <p>「いただき」→自分の見方や考えよりよいと思ったものは青で記入</p> <p>○西洋の写実主義絵画と比較することで浮世絵の特徴である「陰影をつけない線描による平面的な描写」「余分なものを切り捨てた明快な図柄」「鮮やかで精彩に富んだ色彩表現」「左右非対称や余白を活かす、対象物の一部の拡大や切り取る構図」「前景と遠景を対比させる対比遠近法」に気づくことができるよう促す。</p> <p>★新たな見方や考え方に気づき、西洋及び日本の絵画の表現について自分の価値意識を深めることができたか。(思考・判断・表現)</p> <p>○西洋絵画と浮世絵の表現の違いを理解し、今までにない表現方法に触れた西洋の画家の驚きを想像させることで、浮世絵に対する興味を高め、次時への学習意欲につなげる。</p> <p>○ワークシートに自己評価を記入し、本時の学習についてできたこととできなかったことを明確にする。</p>